

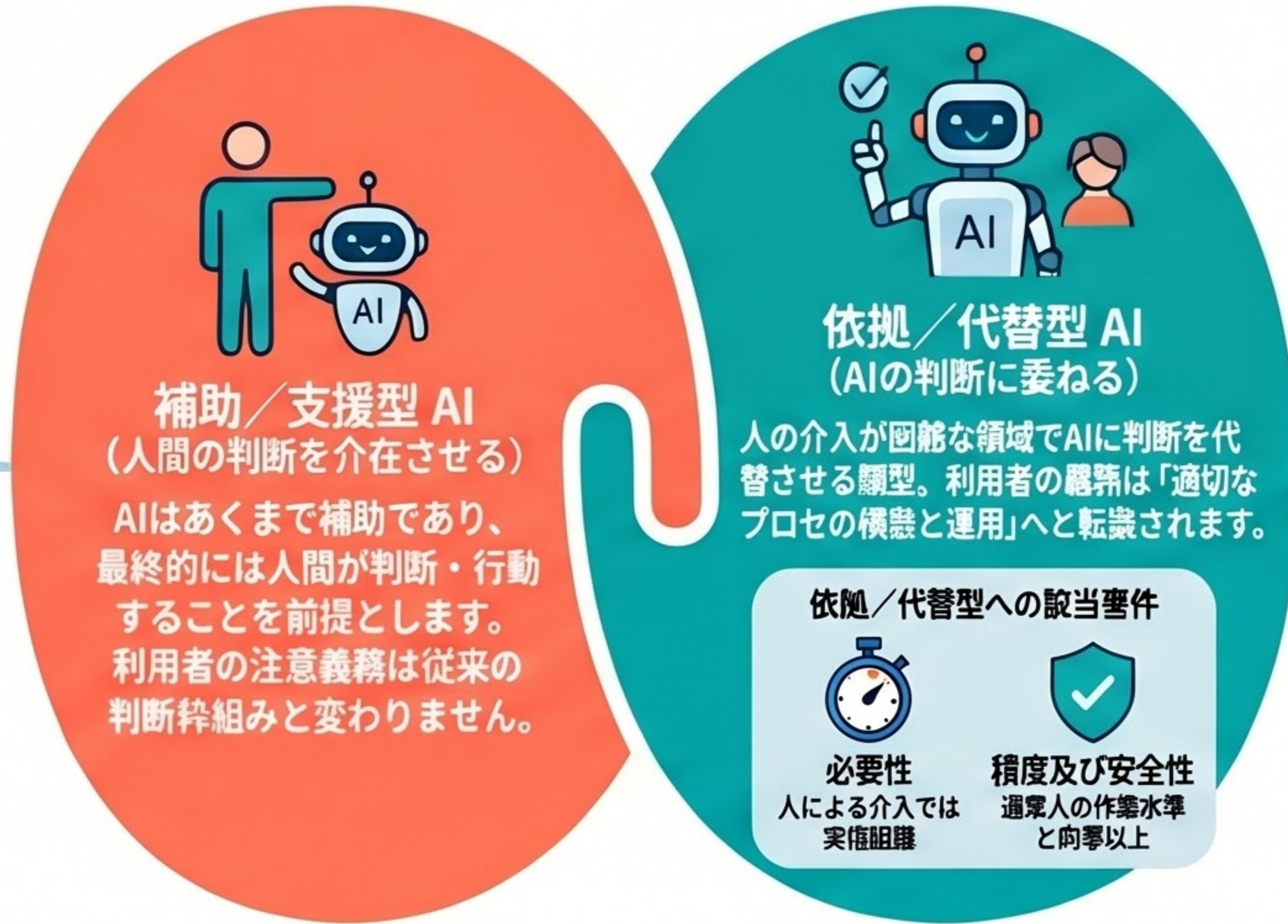
# AI利活用における民事責任の解釈：責任の所在を明確にするためのガイドライン

AIの利活用に伴う事故や権利侵害が発生した際、現行の民事責任（特に不法行為法）がどのように適用されるかの基本的な考え方を視覚的に解説し、事業者の予見可能性を高めるためのガイドライン。生成AIやロボティクスの普及に伴い、AIがもたらす社会的リスクへの対応として、経済産業省が示した指針に基づき、AIの「自働性」や「ブラックボックス性」を考慮した合理的な法解釈の方向性を提示します。

## 民事責任の全体像と検討の柱



## AI利活用の2つの主要類型



## ケーススタディ：責任の所在を考える



## 補助／支援型と依拠／代替型の責任判断の方向性の比較

項目	補助／支援型 AI	依拠／代替型 AI
利用者の責任	個々の局面での適切な判断・行動	業務プロセスの適正な構築・適用
開発者・提供者の責任	性能限界やリスクの説明（説明義務）	安全性を発揮・維持するための設計・説明
人の関与	最終的な判断を人が行う	プロセス全体で精度を確保する仕組み

